

だい きやまとしたぶんかきょうせいかいぎ だい かいかいぎろく ようやく
第3期大和市多文化共生会議 第9回会議録(要約)

にちじ ねん がつ にち にち
日時: 2013年11月10日(日)17:00 ~ 18:20
ばしょ ちょうろう きょうかいこう ざきょうかい
場所: カンバーランド長老キリスト教会高座教会
しゅっせき いいん いしま いとうもとみ いなぶく おかざき きくち
出席: 委員(石間フロルデリサ、伊藤素美、稲福スーザン、岡崎チャメイン、菊池
けんいち みやじまこうじ やまだ ちよんあ し みずむつみ こうえきざいだんほうじん
健一、宮嶋耕治、山田 静 娥) / ファシリテーター 清水睦美 / 公益財団法人
やまとし こくさいかきょうかい たなかひろこ こにしえりこ いしかわかずとも いじょう めい
大和市国際化協会(田中弘子、小西永里子、石川和友)以上11名
けっせき いいん あらいまさのり いとうひろこ こばやし こんのまさる けい
欠席: 委員(新井政則、伊藤裕子、小林 ホルヘ、紺野勝、ファン チィ フォン)(敬
しょうりやく
称略)

1 これまで話し合ってきた災害時の外国人支援

いなぶく いいん はな あ さいがいじ がいこくじん しえん
稲福委員からこれまで話し合ってきた災害時の外国人支援についてまとめてもらった。

2 カンバーランド長老キリスト教会高座教会スペイン語グループとの意見交換及び質
疑応答

さいがい かん げんじょう ちょうろう きょうかいこう ざきょうかい こ
災害に関する現状についてカンバーランド長老キリスト教会高座教会スペイン語グル
ープのメンバーにうかがった。対象者は7名(男性3名、女性4名)。

さいがいじ
災害時のこと

だんたい きょうしつ かんが
団体 / 教室 / グループで考えていることはありますか？

さいがい お き とく
災害が起きたときにどうするか、グループで決めていることは特にないが、それぞれ自
ぶん ひなんじょ しら つた
分の避難所くらいは調べておくことをグループのみんなに伝えている。

じ ち かい ちいき ひと さいがいじ こうどう かんが
自治会など地域の人たちと災害時に行動することは考えられますか？

きょうかい さいがい お とうぜん きょうかい ひと いっしょ ひなん
教会にいるとき、災害が起きたとしたら、当然ながら教会の人たちと一緒に避難する。
じたく さいがい お ちいき ひと いっしょ こうどう こた ひと
自宅にいるとき、災害が起きたとしたら、地域の人たちと一緒に行動すると答えた人は
5名。行動しないと答えた人が2名。

れんらく
連絡をとりあうこと

ふだん れんらく
普段、どのように連絡をとりあっていますか？

でんわ つか れんらく
電話やインターネットを使って連絡をとりあっている。

スカイプやラインなど、インターネットを使った無料通話サービスを利用していますか？

facebook をよく使う。ラインはそれほど使う機会がないが、子どもたちはよくラインを使っているようだ。本国にいる人と連絡をとるときにはスカイプを使うことがある。出身はアルゼンチン、ペルー、パラグアイなどいずれもスペイン語圏。

ほかに教会のホームページがある。メインはスペイン語だが、子どもたちもいるので日本語も混じっている。

グループとしては、大人が約60人、子どもを含めると100人以上。

来日して間もない人はいますか？そのような人が日本に来て困っていることはどのようなことでしょうか？

100人ほどのグループの中で、来日して3年以内の人は2名だけで、ほとんどが来日して10年以上。

災害の時の連絡手段をあらかじめ決めていますか？

連絡網のようなものがあり、リーダーが8人～10人くらいいて、牧師先生からそのリーダーを通じて全員に連絡が届くようにしている。連絡方法はまずは携帯のメールで、返答がない場合は電話で連絡を取り合う。携帯電話を持っていない人は3名(7名中)。持ってない人は固定電話を利用して、配偶者が携帯電話を持っていることもある。

2011年3月11日に起きた東日本大震災の際は、連絡網のような形ではなく、お互いに連絡を取り合う形になった。携帯電話よりも固定電話の方がつながりやすかったり、インターネットの方が連絡が取れたりした。なかなか電話が通じなかったものの、結局はその日のうちに全員と連絡を取り合うことができた。

災害が起きると、電気が通じなくなったり、固定電話でも通じなくなったりすると思う。

避難訓練について

災害の時の避難所を知っていますか？

知っていると答えた人が4名、わからないと答えた人が3名。

災害の時に困った事を相談する時、誰を思い浮かべますか？

まずは教会の仲間に相談する。うまくいかなかった場合、近所の人やその他の友人に

声をかける。例えば、団地に住んでいる場合、その階に住んでいる組長に声をかける
とおも
と思う。

教会では災害に備えて物資を準備しているかもしれない。個人的にも準備している
ひと おお おも ちい こ かがい おも ひがしにほんだいしん
人が多いと思うが、小さい子どもがいる家庭ではなおさらだと思ふ。また、東日本大震
さい あと かいしゃ ぼうさい
災の後に、会社から防災キットをもらった。

会社からも、学校からも災害に備えるように言われているので、普段から意識して準
び
備するようにはしている。でも、実際に災害が起きたらどうなるのか分からない。東日
ほんだいしんさい と き くる おも ひと おお じぶん も わ
本大震災の時は、苦しい思いをした人が多いが、自分が持っているものを分けるなど
の気持ちが大事になると思ふ。

外国人専用の避難所があれば、利用しますか？

「近くだったら行くけど、遠くだったら行かない」「同じ避難所で問題はないが、日本人が
がいかくじん おな ひなんじょ おも き あ
外国人と同じ避難所にいると思うのか、気になる」「合わないのではなく、自分が合
わせようと思ふ、合わせられる」といった意見があった。

近くにあるなら利用すると答えた人が1名、どちらでもいいと答えた人が1名、利用しな
いと答えた人が5名。

災害ボランティア登録があったら、ボランティア登録はできますか？

ボランティア登録の際は年齢、職業、得意分野などを記入する必要がある。もちろん
できざいてきしょ ひと わ ぶ たいせつ ひがしにほんだいしんさい ばあい じっさい
適材適所で人を割り振りすることは大切だが、東日本大震災の場合、実際にはどん
な人であってもとにかく人手が必要だった。得意分野によってボランティアする人を限
定するべきではないと思ふ。

災害が起きた場合、全員が被災者になっている状況を考えおく必要がある。

(質問の補足)

ここでいう災害ボランティアとは、来日したばかりの外国人、高齢者、乳幼児を抱えた
ひと たと おな げんご がいかくじん でむ かつどう
人などのために、例えば同じ言語の外国人のところへ出向いて活動するボランティア
のことで、避難所の中でボランティアをする人とは少し違う。

日本人の中でもいろいろなバリエーションがある。例えば、障がいを持っている子ども
の親や車いすに乗っている人では、一般的な人とは対応に違いが出てくる。

そのほか

災害が起きたときに、行政から出される情報はどのような方法で提供してほしいです

か？

まずは、防災無線(スピーカー)を使ってスペイン語で放送してもらえるといい。ほかに、ラジオ(FM やまと)での情報。

教会に通っているほとんどの人が facebook を使っているので、市役所からスペイン語で facebook に情報を流してくれるといい。ただし、誰が翻訳を引き受けるのか、考える必要がある。

紙での情報提供もいい。ただし、母国語であっても字を読めない人、むずかしい言葉がわからない人がいることも考えられる。これは、スペイン語に限らず、他の言語を含めての想定。

たとえ、スピーカーを使ってスペイン語で呼びかけたとしても、聞き取れない場合もあるのではないかと。また、日本語で放送した後、スペイン語を流したとしても、英語や中国語など他の言語は流さなくてもいいのか、という疑問はある。

日本語で放送したものを近くの日本人がうまく伝えてあげて、近所のみんで避難する、という形が理想的かもしれない。

しかし、今や隣に住んでいる人の顔も知らない。個人情報の関係なのか、アパートのドア(表札)に自分の名前を書かない人が多くなっている。そういう意味では日本社会も変化している。

先日、伊豆大島で大雨が降って大きな被害が出たが、その時は夜中にかけて急激に雨が強くなってしまったため、防災無線を使ってうまく避難指示を伝えることができなかった。

災害発生時に広く情報提供する手段として、防災無線のほか、FM やまとのラジオ放送、やまと PS メールが挙げられる。

災害時に、この場所は、どのように使うことになりますか？

例えば、選挙の際には、大和市内の投票所の一つとして利用されている。今のところ、災害時の利用目的が明確に決まっているわけではない。

災害多言語支援センターには、どのようなことをしてほしいですか？

一番必要なことは多言語情報の提供という点。

災害多言語支援センターは、もちろん普段は存在しないものと思うが、すぐに立ち上げられる体制を整える必要がある。

自分自身は外国人だが、支援する側の一員として、日本人と一緒にサポートしたい気

もちがある。

日本語教室に通っているのだが、災害時に理解することのできる「かんたんなにほんご」があるといいと思う。

例えば、それぞれ違う意味の2つの漢字を一緒にすることがある。外国人からすると、読み方がわからなくなるので、理解できない。

まずもって、「災害」という言葉がむずかしい。「避難所」「救援物資」など、災害の時だけに使う言葉は多い。

日本人にとっても普段使っている言葉の方がいいのではないか。福島であった日本人の例だが、ある避難所で「救援物資」をもらうために並んでいたら、希望していた「救援物資」と違って、ということがあったようだ。

国際化協会が『Terra』『Tierra』といった外国語版情報紙を発行している。しかし、市役所などには置いてあるものの、外国人個人に届けられるものではなく、すべての外国人に情報が行きとどいていないわけではないので、そこが問題。

3.11 のとき、福島にいたので避難所で生活した経験があるが、1 か月ほどはずっと頭が痛かった。薬ひとつをもらうためにも医師の診断が必要なためか、たいへん時間がかかった。そういった説明があったのかどうかかわからないが、避難所で生活するシステムがよくわからなかった。

現在、グループが抱えている一番の問題は何ですか？

個人的なことでは、言葉(日本語、漢字)のこと。10年以上、日本に住んでいる人でも、日本語レベルに差がある。

20年前だと、日本語ができないと生活できなかったが、今は雑誌やインターネットから情報を得ることができるので、日本語ができなくても生活に困らない。また、日本語ができる人がいると、「通訳してくれ」とすぐに頼んでしまう。自分自身、日本に来た時には、「ダメ」「がんばれ」などの日本語が全然理解できず、苦しいような、悔しいような思いをしてきた。日本語ができない外国人の姿をみると、自分が経験したような苦しい思いをさせたくなくて、通訳してしまうことがある。

(日本語について)

現在は、翻訳してもらえる機会も多く、便利になっているにもかかわらず、どんなときに言葉でいやな思いをするのだろうか？

例えば、自分の国の言葉(スペイン語)で書かれた雑誌や新聞を読むと、日本に関する情報はあつものの、母国にいる人のための情報が中心になっている(例:日本の文

かしょうかい かんこうあんない にほん せいかつ ひつよう じょうほう ちいき
化紹介や観光案内)。しかし、日本で(生活していくのに)必要とされる情報は地域で
お 起きていること にほんじん か じょうほう にほんじん か じょうほう がいこくご か
起きていること(日本人が書いた情報)。日本人が書いた情報は、外国語で書かれた
ざっし しんぶん の がいこくじん じょうほう せつ
雑誌や新聞に載ることはなく、外国人はそうした情報に接していない。

いちばんこま びょういん ほうりつ こ がっこうきょういく かん
一番困るのは病院や法律、子どもたちの学校教育に関すること。

ことば こと
言葉がわかって、なぜそうしたやり方をするのか、わからないときがある。つまり、言
ば はいけい かんが かた ぶん か りかい ひつよう もんだい
葉だけでなく、背景にある考え方、文化を理解する必要がある。そこが問題になって
いる。普通の情報ではなく、文化(的背景)についての理解が必要。

「そんなことを言っている場合ではなく、とにかく日本社会に飛び込まなくては行けない」
という意見もよくわかるが、そのためには覚悟が必要となる。自分と異なる文化に入っ
ていくには、自分を捨てて、ゼロから始めないと行けない。そうでもしないとわからない。
25年経っても、まだ日本語がわからない人がいるが、そういう人はまだ自分の文化を
かか こ にほん す にほん す にほん ぶんか う
抱え込んでしまっているのではないかと。日本に住んでいるのに、(日本の文化を)受け
入れていかない気持ちになってしまっている。

(その他)

しょうらい ぶ あん くち ひと にほん き とき わか なんねん はたら
将来の不安を口にする人もいる。日本に来た時は、若いうちに何年か働いて、そのう
ち本国に戻るつもりだったが、いつの間にか 10年、20年と時間が過ぎて、子どももお
お 大きくなった。本国には親戚などもあるので、いずれは帰るべきなのか、それとも日本に
す つづ き ひと
住み続けるべきなのか、決めかねている人もいる。

いじょう
以上